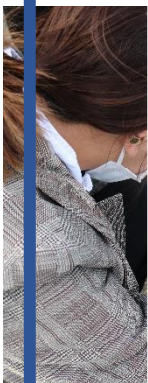




— 基調講演 —

まちづくりをどう学びにつなげるか 探究型地域教育の実践



事業構想学群地域創生学類 准教授 佐々木秀之

PROFILE



宮城大学 事業構想学群 准教授
国際交流・留学生センター副センター長

佐々木 秀之

学 位：博士（経済学）
専門分野：地域経済学、日本経済史、ソーシャルビジネス
所属学会：日本計画行政学会、日本建築学会、東北経済学会、
市場史研究会等

略歴

1974年仙台市生まれ。岩手大学農学部卒業後、商社勤務等を経て、東北学院大学大学院経済学研究科へ社会人入学。2011年3月修了、博士（経済学）。東日本大震災の復興過程では、起業家支援・復興まちづくり計画の策定等に従事。2016年より現職。

地域経済学：持続可能な地域開発のあり方

「駅裏」の成立からその後の展開を、日本経済史の観点から、取りまとめた。駅裏は、資本主義的経済発展の過程で誕生した、裏側とされる存在である。 持続可能な開発を考える上では、裏とされる側を受け止めることが重要となる。



TX0. 記事ID: KZ01804160Y0Y10YX00001 (C) 河共新報社

仙台市東八郷丁〈宮城野区福間〉の片倉船台製糸所。東北各地から絹を集め、1935〜35年に操業した—1988年ごろ

仙台歴史の陰探る

駅裏 130年

佐々木秀之 著

宮城大・佐々木准教授

「街の負の部分支えた」

工場・軍隊・性風俗

組織・人材

地域づくりを担う人や組織に関する実践研究。日本におけるまちづくりにおいては、中間支援人材によるマネジメントが必要。



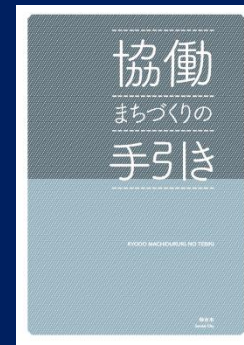
地域経営

社会起業家や社会的企業に関する実践研究。社会や地域の課題をソーシャル・ビジネスの手法によって解決を図る。



地域政策

協働まちづくりや地域観光に関する実践研究。コミュニティ施設の運営にも範囲が広がっている。

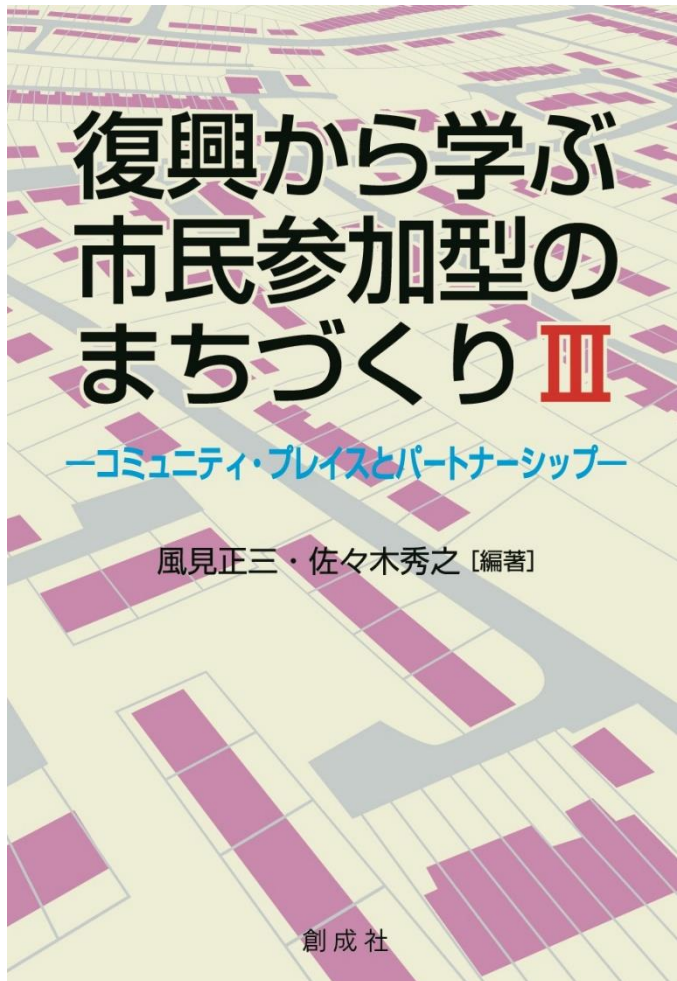


◇復興から学ぶ市民参加型まちづくりシリーズ



コミュニティ・プレイス、場の大切さ

【コミュニティ・プレイス】



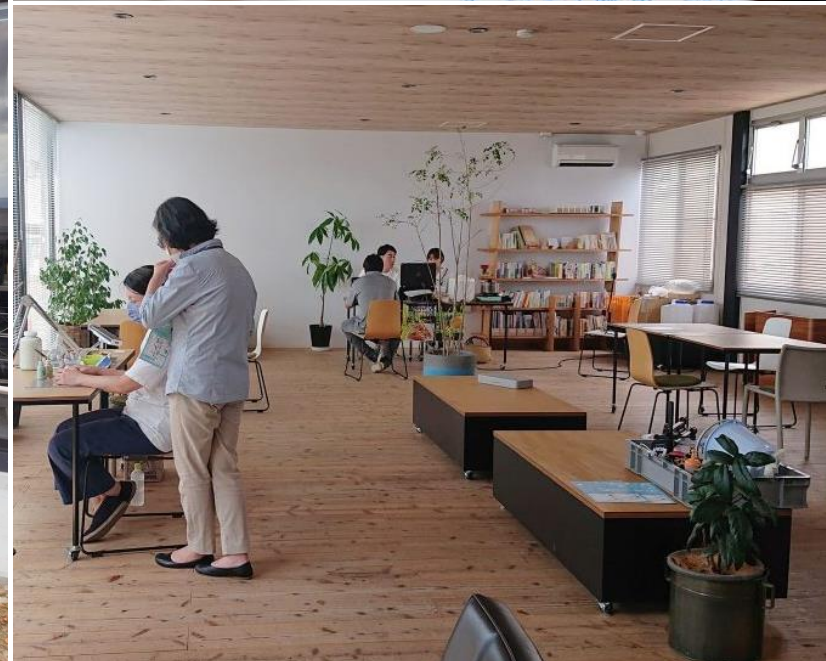
本書では、地域コミュニティにおいてサードプレイスの役割を担う活動拠点を、**コミュニティ・プレイス**と表現している。コミュニティ・プレイスとは、地域コミュニティが主体となって多様なまちづくりを展開するための場のこととしたい。市民が形成プロセスに関わり、デザインが施された場には、市民が自然と集えるスペースがあり、そこでの語りの中から協働や共創が生まれる。身の丈にあったイノベーションが連続して生まれることが理想であり、革新し続けることが拠点の持続性にも直接影響する。

コミュニティ・プレイスの事例

【利府町】

利府町まち・ひと・しごと創造ステーション
tsumiki

2016年11月19日 開設



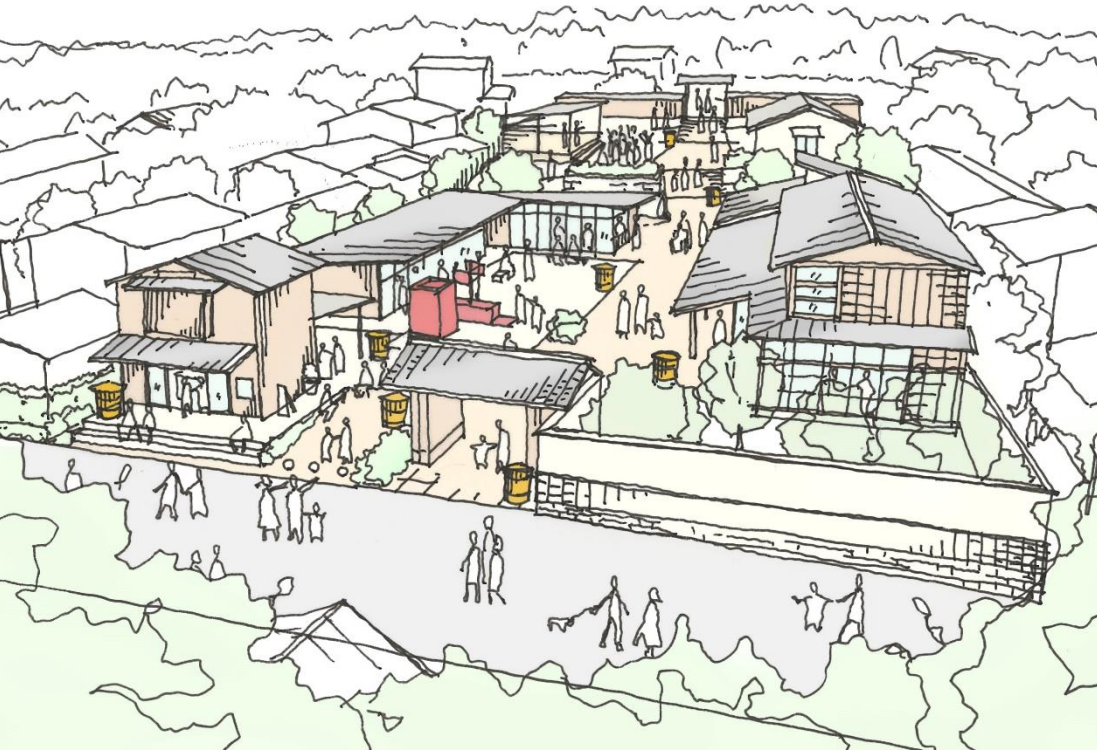
 GOOD DESIGN
AWARD 2020

コミュニティ・プレイスの事例

【富谷市】

富谷宿観光交流ステーション とみやど

2021年5月 開設



歴史と人が活かされた“まちのフードコート”



歴史と人が活かされた“まちのフードコート”

仙台駅から車で30分

るるぶ
初登場エリア

とみや

かつての宿場町がアップデート! 富谷

仙台市の北に隣接する富谷市は、開府400年の歴史を持つ宿場町の風情を残す街。近年は移住者や起業家出身の若い世代が多く、チャレンジ精神旺盛で盛り上がりを見せている。

町おこしの
キーマンに聞く

宮城大学
佐々木秀之准教授



仙台のベッドタウンとして急速に栄えている富谷には、かつての宿場町の面影が残っています。今の暮らしと共存しながらその歴史を自分たちの手で守っていく。“まちのフードコート”として地域の想いが届くところに濃縮されています。

モダンな雰囲気漂う古民家カフェ

cafe hito no wa

★ふるさとのおもてなし

☎022-725-7313 ㊟付録2P4E2

富谷の新拠点“とみやど”

富谷宿観光交流ステーション

(愛称:とみやど) ★ふるさとのおもてなし

☎022-347-3344 (代) ㊟付録2P4E2

新町地区の「内ヶ崎醤油店」跡にオープンした交流拠点。富谷の偉人・内ヶ崎作三郎氏の記念館やマルシェ広場などで構成され、観光でのまちおこしのモデルとして全国からの注目も高い。

☎富谷市富谷新町111-1 ☎仙台北部道路富谷ICから車で10分 ☎10～17時※火曜(祝日の場合は翌日) ☎39台

EIGHT CROWNS

★おいしいくらうんす

☎080-7007-5833

七ツ森を望む豊かな風土で育まれた風味豊かな生はちみつ。ピザに合うハバナロウ味やミード酒(はちみつを使った酒)なども販売。

☎11～17時



★左からアカシア1990円、ナッツ&ハニー 1690円、ハバナロウ&ハニー 2430円。お加熱のためエグみがなく、すっとし口どけに優く



& Tomiya Gelato

★あんどとみやしそーと

☎090-8614-1038

ブルーベリーやハチミツなど地元食材を使ったやさしいジェラート。「この町に感謝しがしたい」というオーナーの温かさも魅力。

☎11～17時

★ミルクのココとソースの酸味が溶け合う「ブルーベリーハニー」は、地元産の卵を使った「ずんだ」のプレーパー。シングル450円、ダブル550円



自家栽培の米や地元野菜を中心としたランチ。素材にこだわった手作りスイーツが自慢。

マフィンやスコーン、焼き菓子もおみやげに人気。
☎富谷市富谷新町108
☎仙台北部道路富谷ICから車で10分 ☎11時～16時30分L.O ☎木・金曜 ☎3台 無料用は1グループ4名まで、店内での飲食は小学生以上から



333 '25 最新版 特典 無料電子書籍 電子クーポン 200円引 Googleマップ

仙台松島宮城

超おトク

特別付録 仙台駅パーフェクトBOOK

ドライブMAP

お土産グルメ

アニメ映画の舞台

秋保とせんたいの手紙

ふるさと情報局

宮城大学の講義事例
コミュニティ・プランナープログラム
CPフィールドワーク演習（3年次）

コミュニティ・プランナーとは

現在、公共機関のまちづくり分野、福祉や医療、商業や農業など、あらゆる分野において、地域主体の視点を持った人材が求められています。

本プログラムにおける「**コミュニティ・プランナー**」とは、「地域が抱える多様な課題の解決や、地域が求める多様なコミュニティづくりに貢献できる人材」を指します。

このような人材を育成するために、阪神・淡路大震災および東日本大震災からの復興に取り組む**兵庫県立大学**と**宮城大学**が、被災地に立地する公立大学として互いの強みを生かしたプログラムを展開しています。

(宮城大学地域連携実践教育プログラム パンフレットより引用)

宮城大学 コミュニティプランナー（CP）・地域フィールドワーク 地域連携型実践教育 経緯

2012年
(平成24年度)

文部科学省 大学間連携 共同教育事業 採択事業
宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティプランナー育成のための実践的教育課程の構築」

2013年
(平成25年度)

コミュニティ・プランナーカリキュラム検討、試行授業実施

2014年
(平成26年度)

コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC)運営開始

2015年
(平成27年度)

コミュニティ・プランナー科目 開講

2016年
(平成28年度)

地域フィールドワーク カリキュラム検討開始 (10月 部門設置)
文部科学省 事業終了

2017年
(平成29年度)

宮城大学 学群学類制移行
1年次 全学必修科目 地域フィールドワーク 開講

宮城大学 コミュニティプランナー（CP）プログラム 科目構成

称号授与（卒業時）

コミュニティ・プランナー アソシエイト

3年前期・後期（計2単位）／選択科目

CPフィールドワーク演習

2年後期（2単位）／選択科目

CP実践論

2年前期（2単位）／選択科目

CP概論及び演習

CP
関連科目

既設開講科目
より選択履修

1年前期（1単位）／必修科目

地域フィールドワーク

学生の主体性

教員のサポート

地域フィールドワークの構成



第1回講義

フィールドの情報収集・整理／行程計画の策定



第2回講義

フィールドワーク（見学・ヒアリング）



第3回講義

情報や気づきの整理／発表資料の作成



第4回講義

報告会

CP概論及び演習・CP実践論の構成

CP概論及び演習

(2年次全学群共通選択科目／前期)



実践手法の習得

CP実践論

(2年次全学群共通選択科目／後期)



実践手法の活用体験

CPFW演習の構成

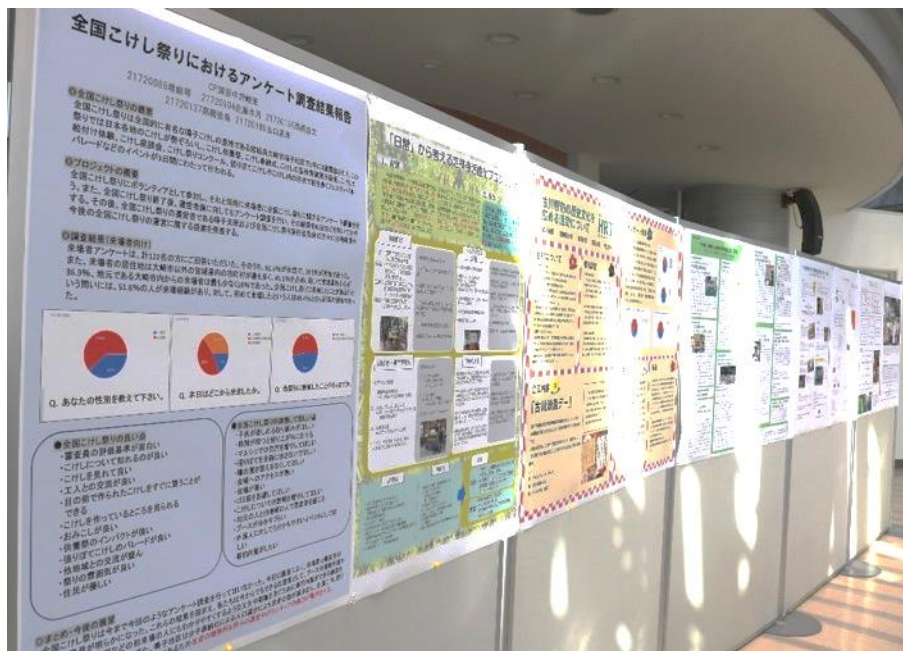
CPフィールドワーク演習 (3年次全学群共通選択科目／前期)



実践手法の活用

コミュニティ・プランナー科目 兵庫県立大学との 合同報告会 〈遠隔講義〉

※写真はH31年度の様子
R2年度以降は一人一端末でZoomに参加する形式で実施



一連の講義における体験と学生の変化

体験

～

地域への
まなざしの
変化

3
年次

前期・後期（計2単位）／選択科目

CPフィールドワーク演習

「活動人口」的
関わり

…

地域への
着地

2
年次

後期（2単位）／選択科目

CP実践論

「関係人口」的
関わり

…

地域への
愛着

前期（2単位）／選択科目

CP概論及び演習

1
年次

前期（1単位）／必修科目

地域フィールドワーク

「交流人口」的
関わり

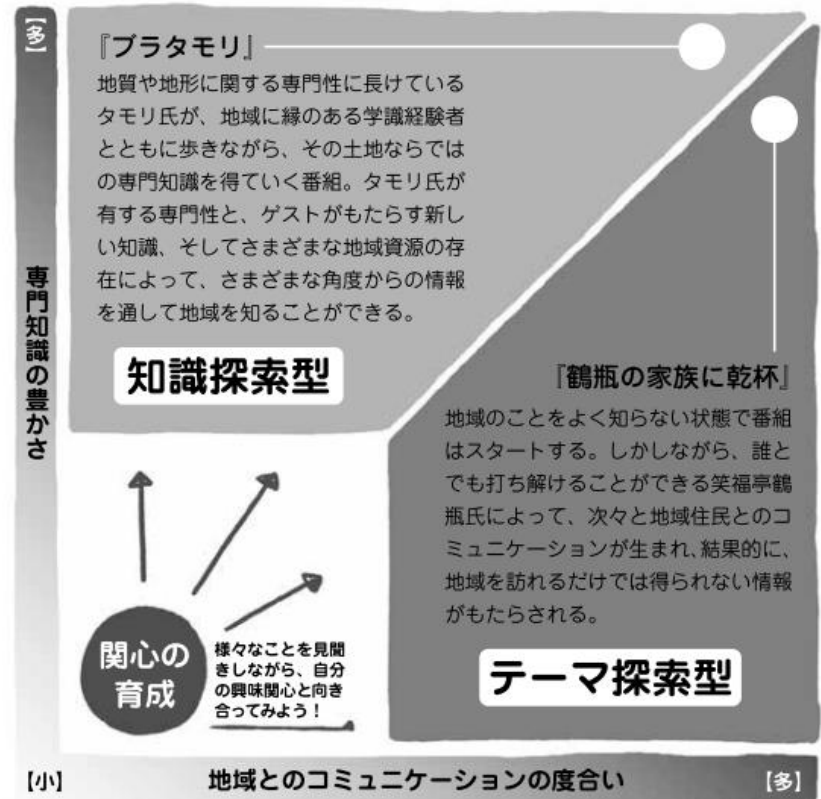
…

地域への
着目

「地域フィールドワーク実践入門 - 地域探究の道しるべ」



図表1 「地域とのコミュニケーションの度合い」と「専門知識の豊かさ」を指標とした二軸図



[小]

地域とのコミュニケーションの度合い

[多]

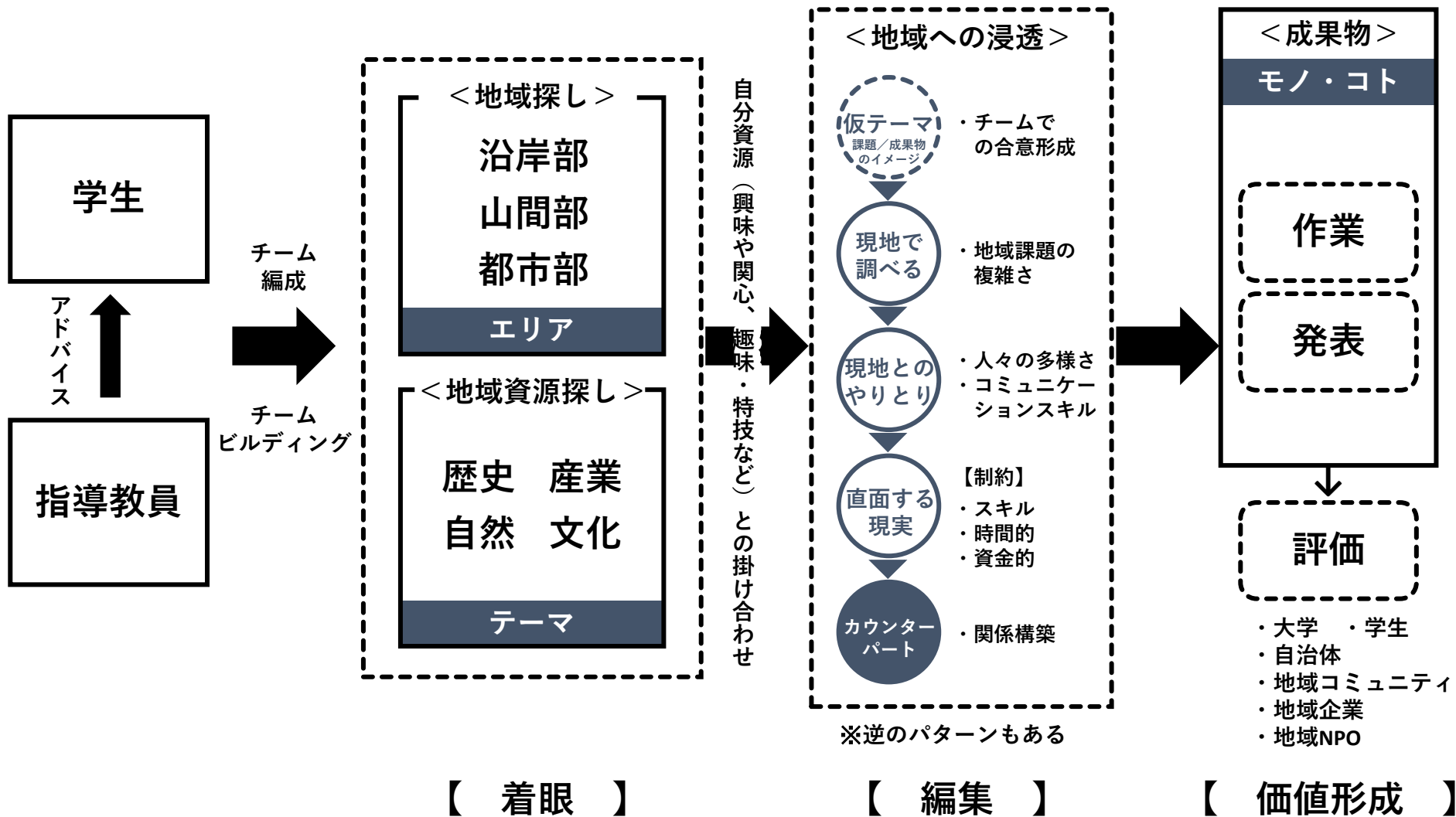
「地域共創型実践教育 入門
-コミュニティ・オーナーシップの
醸成を目指して」

Coming Soon
2024年5月刊行予定
(北樹出版)

コミュニティ・オーナーシップ

地域コミュニティへの
興味・関心を土台として、
地域コミュニティとの
関わりによって醸成される、
地域社会に対する当事者意識

地域学修におけるプロジェクト展開図



「結果」と「成果」

辞書の定義

広辞苑

【結果 [けっか]】

- ①実(み)を結ぶこと。結んだ実。結実。
- ②(effect)原因によって生み出されたもの。また、ある行為によって生じたもの。その生み出された状態。副詞的にも用いる。
「実験の一」「よい—をもたらす」「話し合いの一解決する」↔原因。

【成果 [せいか]】

なしえた**よい結果**。できばえ。
「—をあげる」「—を収める」「研究—」
⇒せいか - しゅぎ【成果主義】

引用：広辞苑無料検索（広辞苑）

- ・結果：<https://sakura-paris.org/dict/%E5%BA%83%E8%BE%9E%E8%8B%91/prefix/%E7%B5%90%E6%9E%9C>（2024/01/23 参照）
- ・成果：<https://sakura-paris.org/dict/%E5%BA%83%E8%BE%9E%E8%8B%91/prefix/%E6%88%90%E6%9E%9C>（2024/01/23 参照）



チームチャンピオンズ 合同報告会

佐藤亜美 宮澤朋花 小林季早希
稲葉公成 立花弦喜

Agenda



01 プロジェクト概要

02 これまでの活動内容

03 プロジェクト実行報告

04 振り返りを経て

Agenda



01 プロジェクト概要

02 これまでの活動内容

03 プロジェクト実行報告

04 振り返りを経て

01 プロジェクト概要

タイトル『体験型すごろくで防災を学ぼう！』

●実行日

9月24日(日)

●実施場所

石田沢防災センターの会議室

●ターゲット

未就学児～小学校低学年の子ども

→前回のまつの市を調査

比較的小さい子どもが多く来場していたことから

ターゲットの年齢層を選定



↑前回のまつの市に参加した時の様子(7月)

01 プロジェクト概要

プロジェクトの目的

- 東日本大震災を経験していない世代の子供たちへの防災教育

- 石田沢防災センターの存在意義を伝えたい

6月にチームで松島町をフィールドワーク

→初めて石田沢防災センター見た時に、

何の建物なのかわからなかった

→防災センターにネガティブな意見をもつ人も
(インターネットの口コミより)

- 多岐にわたって防災教育をしたい

松島町役場の環境防災班にインタビュー

→職員の方々のお話を参考

『地震や津波に対する防災も大切だが、

松島町は山が近いので大雨による

土砂災害などの自然災害も懸念されている。』



↑松島町フィールドワークの様子(6月)

Agenda



01 プロジェクト概要

02 これまでの活動内容

03 プロジェクト実行報告

04 振り返りを経て

02 これまでの活動内容

実行日までの活動内容

4・5月：チーム編成・活動の方向決め
→「地域資源」をテーマにチーム結成
地域資源が豊富な松島町をフィールドに設定

5/30：松島町訪問

6/30：松島町防災センター訪問
→9月のまつの市への参加を視野に入れる

7/30：第二回まつの市参加

夏休み中：オンラインMTG、スケジュール作成、
松島町への連絡、対面で制作活動

9/19~23：巨大すごろく制作

9/24：まつの市当日 プロジェクト実行日



個人作業と共同作業を分けて
優先順位を決めたため
スムーズに製作が進んだ！



↑すごろく制作の様子

02 これまでの活動内容

苦労したこと：路線変更で何回も挫折...

● 謎解きゲーム・RPG

概要：地域資源に関する謎を解き、RPG形式で松島の魅力を理解する。
→地域交流の促進を目的とした企画内容。

...しかし、7/30のまつの市の見学で、来場していた子どもたちの年齢が予想よりも低いことが判明
→企画の練り直しが必要に
⇒「段ボール迷路」に路線変更！！

● 段ボール迷路

概要：段ボール迷路で子どもたちが防災を学ぶことを目的とした企画内容。

...しかし実際に組み立ててみて

- ・ 安全性が確保できないこと
- ・ 運営に人手を要する
- ・ 段ボール迷路によって 防災を学べるのか
- ・ 段ボールの 搬入が困難



などたくさんの課題が...

02 これまでの活動内容

→9月上旬に、企画の練り直しが必要に。

話し合いの内容

- ・ 段ボール続行派と代替案派
→活動の記録が次のアクションに繋がった
- ・ プロジェクトの目的を再確認
→地域おこしメイン or 防災メイン
- ・ 何度もミーティングを重ねる
→みんなの意見が収束するように
もやもやするメンバーがいないように(..)



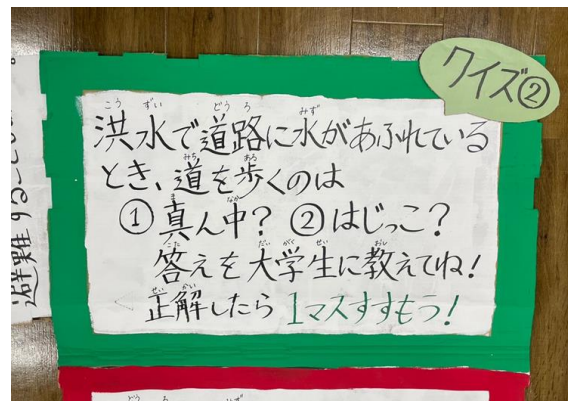
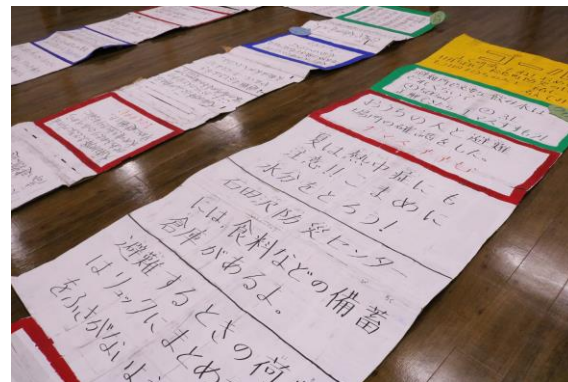
↑段ボール迷路を一部組み立てたもの

⇒話し合いの結果、本番の2週間ほど前に「**すごろくゲーム**」に路線変更！

03 プロジェクト実行報告

防災を学びながらゴールを目指す 『すごろくゲーム』！！

- ゴールした順番を競うのではなく
防災を学んでゴールすることが大事！
- 「地震&津波ゾーン」、「台風&洪水ゾーン」、
「避難生活ゾーン」に分けてそれぞれの知識を身に付けてもら
う。
- それぞれのゾーンの最後にクイズマスを設定した
→ 小さい子どもたちが飽きないように工夫
- 「松島町の防災」であることを意識
→ 石田沢防災センターの情報や
松島町の防災マニュアル情報を掲載



Agenda

01 プロジェクト概要

02 これまでの活動内容

03 プロジェクト実行報告

04 振り返りを経て

03 プロジェクト実行報告

当日の様子

- 当日のまつ市の市は**大盛況**！！
たくさんの場所から
多くの来場者が訪れました！！
- 会議室への来場者数
→**およそ50人**
- すごろくゲーム体験者数
→**およそ20人**
- 子どもたちや親御さんに
気軽に来てもらえるように
わなげも設置！！



↑まつ市の様子

↑まつ市のポスター

03 プロジェクト実行報告

まつの市当日の様子



03 プロジェクト実行報告

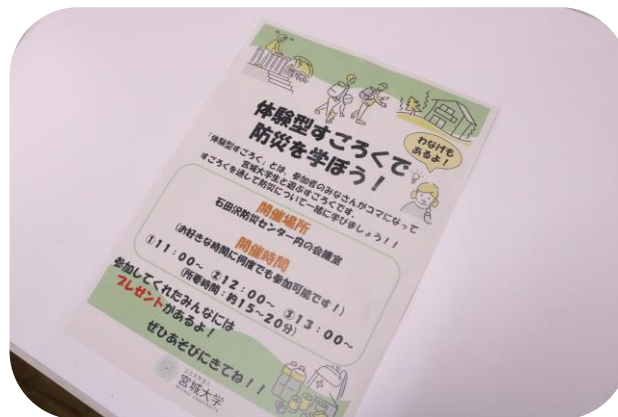
良かった点

●環境づくり

集客に不安を感じていたが、わなげブースを作り
気軽に遊べるような環境づくりをしたことで、
すごろくゲームへの誘客がスムーズにできた。
また、オリジナルで配布用のチラシを作ったことで
誘客につながった。

●子どもたちの防災理解度

配布用すごろく以外のすべてにふりがなを振り、
簡単な文言にしたことにより、小さい子どもたちと
一緒に読むことができた。
その結果、「防災について理解してもらおう」という
目的を達成することができた。



03 プロジェクト実行報告

景品について

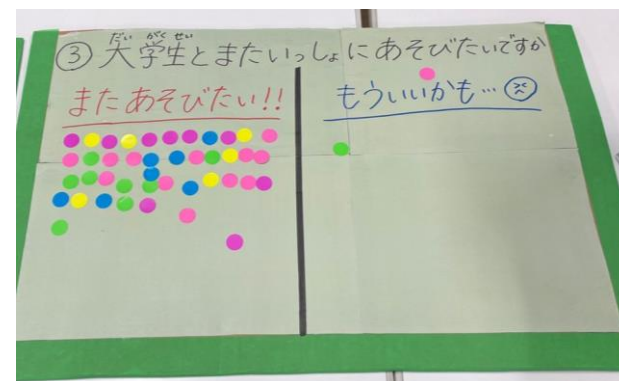
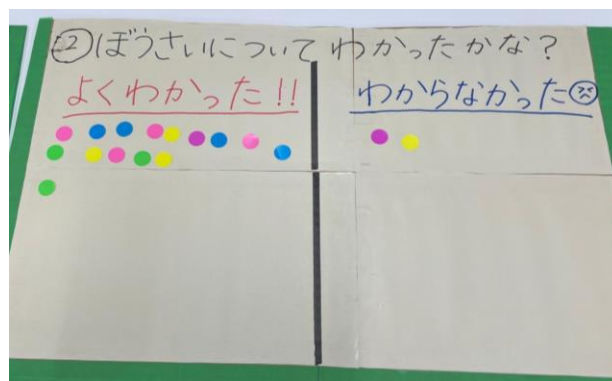
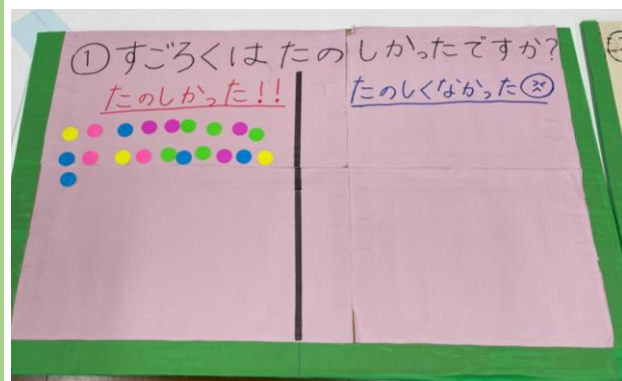
- かぞくといっしょに！防災すごろくゲーム
家でおうちの人と一緒に楽しめるように書き換えたすごろくを作成
→子どもだけでなく大人にも防災を考えてもらうきっかけづくりに！！
- 災害時に役に立つ！新聞紙スリッパの作り方
子どもたちの靴下が汚れないようにあらかじめ制作した新聞紙スリッパを家でも作れるように説明書を作成
→家でも簡単に作れることを共有！！
- 飴などのお菓子も用意して楽しさアップ！



03 プロジェクト実行報告

アンケート結果

※10：00～10：40→アンケート取り忘れのため実際の人数より少ない



① すごろくは楽しかったか
(すごろく体験者向け)

楽しかった! → 20票
楽しくなかった → 0票

② 防災について分かったか
(すごろく体験者向け)

よくわかった! → 15票
わからなかった → 2票

③ 大学生とまた遊びたいか
(すごろく・輪投げ体験者向け)

遊びたい! → 42票
もういいかも... → 2票

Agenda



01 プロジェクト概要

02 これまでの活動内容

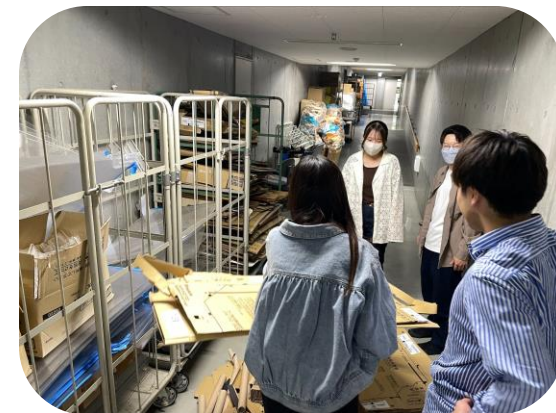
03 プロジェクト実行報告

04 振り返りを経て

04 振り返りを経て

イベント後の振り返り

- ターゲット：小・中学生
→ 実際の参加者はもっと小さな子ども達
難易度設定が難しかった
- 景品と輪投げの効果が大きかった
→ **参加者の視点**から考えて準備できた
- 時間じゃない時もやることができたのが効率的
→ 名目だけでも **時間を決めたのが良かった**
- 大人から見ても意味あることができたのがよかった



04 振り返りを経て

これまでの過程の振り返り

- 方針が崩れることが何回かあった(段ボール迷路・謎解き・お泊り)
→すぐ代替案が出た
→挫折したから成功したぞ!!!という強い自信に繋がった
- 役割分担をしてメンバー1人ひとりが率先して作業を行っていた。
→コミュニケーションを積極的にとっていたからこそ、笑って乗り越えられる環境になった。
- 期日の設定について
早い段階で期日(9月のまつの市参加)を決めていた。
7月のまつの市の見学がターゲット設定にも繋がった。
- 反省点→低迷期(混乱期)の連絡の仕方
夏休み中ということもあり連絡がコンスタントにとれない。
話の流れが速すぎて追いつけてないときもあった。
→時間決めてLINEで話し合えばよかった。





ご清聴ありがとうございました！！





研究室web



ご清聴、ありがとうございました。



So-gud

地域資源マネジメントを軸にした市民参加型のまちづくり



BizDev Meetup!

地域資源に「自分資源」をかけ合わせ、半歩踏み出してみよう

web記事 →



← web記事

